
“ わん ” ダフルな世界

藍色草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

“わん”ダフルな世界

【Zコード】

Z6605F

【作者名】

藍色草

【あらすじ】

バリバリ現役女子高生！な主人公は大の犬好き。そんな主人公が愛犬をかばつてトラックに撥ねられてしまつて！？気がついたら知らない男が看病してて！？その上男は主人公の愛犬！！？「ご主人」ラブな愛犬とそれを取り巻く愉快な仲間たち？の涙あり笑いありのどたばたコメディ連載です

プロローグ（前書き）

この小説は動物の擬人化・異世界トリップ等扱っておりますのでそのようなものが苦手な方はお引き取りください。

プロローグ

私の可愛い可愛い、天使のような存在・・・フェルデン。クリーム色のふわふわな毛。輝いた黒のつぶらな瞳。なでると動くその尻尾・・・！可愛すぎる！――

フェルデン、と呼べばすぐ駆けてくる。そう、フェルデンは犬。一見マルチーズのようではあるが雑種で、家の近くの公園に捨てられていた。あの日は雨が降っていたから家につれてきたんだけど、二日三日一緒に居て愛が芽生えてしまった。表現がオーバー？そんなこと無い。だって私にとつてフェルデンは家族でもあり、友達でもあり、恋人でもあるから。

今日もフェルデンと一緒にお散歩。これは私とフェルデンの中では日常化されているものだが皆には驚かれる。別にいいじゃない、首輪やリードなんて。あんなもの、どうして必要なのかわからない。ちゃんと愛情を注げば、気持ちを伝えようとすればいいじゃない。そう、つこさつきまでは思つていた。

「フェルデンシ」

キキー――

バンッ

「・・・ツツ」

クウーンと擦りついてきたフェルデンに大丈夫、と声をかける。一瞬のことだった。私が落としたキー ホルダーを、フェルデンは取り

に行つたくれたのだ。けれどキー・ホールダーは道路まで転がつていて。気がついたときにはトラックがフェルデンに迫っていた。リードを付けておけば、と初めて後悔した。

大丈夫かい、と声をかけてくるトラックの運転手。いやいや、人を撥ねておいてそりや無いだろう、と心の中で文句を言つ。はい、と返事をしようとしても声が出ない。目の前も真つ暗で何も見えない、音も聞こえなくなってきた。

死ぬのかな、と思った途端寒気がした。どうしよう、怖い。死が近づいてくるのが分かる。助けて、死にたくない。それに私が死んだらフェルデンは？世話は誰がするの？いや、それ以前にあの子はすつと私の帰りを待ち続けるだろう。他の人の用意した餌なんか食べないかもしれない。駄目、駄目・・・！あの子のためにも死んではいけないのに！誰か助けて、誰か・・・！

第一話

「ああ……」はぢこだろ、一面真つ暗闇。天国かな? だといいんだけど、地獄は……ちょっと勘弁。

「フェルデン……」めんね……。もつ、会えないの……。

「……い」

「ん? 何か聞こえた? ……気のせいか。」

「おい、おい!」

「ほええ! ? 誰、誰ですかああ! ! ?

「え、俺? フェルデンだ、ご主人。」

「! ! ! ……フェルデン、なの? ジやあ、これは神様が起こしてくれた奇跡なのね! ! わあ、嬉しい! 自分の犬と最後に会話できるなんて! ! ああ、素敵! ! !」

「おこ、『主人？』おさりよ、『主人は生きてるんだぜ？なあなあ、おさりつてー！』

「へ？生きてるの？私。つてことは……これって夢？まあ、犬が話すわけ無いしね。」

「いやいや、残念ながら俺は話してるぜっ、『主人。』

「だから、これは夢だからでしょ？つて痛つつ。」

ん、痛い……？だつてこれは夢の中のます。うん、ねあれつ。夢から覚める夢から覚める夢から覚める夢から覚める……

パチツ

ほら、夢だ。生きててよかつたあ。で、やつから死になつてたんだけぢ。

「アンタ誰

「反応おせえな

「こやまじで誰？」「病院じゃなし。私はいつたいどつなつた訳

？」

「先ず「はははははははは」病院じゃなくて、んー、いや病院……か？」

「まつわしふみ」

「あ、ああ。じゃあ病院で。でどうなつただつけか、死んだんだけ
ど生き返つた。」

「いや、あのつっこみみたいんだけどさ、茶色の病室つてビーよ。
そこか「……悪い? てゆーか死んで生き返つたとか嘘つしょ。あ
りえないじゃん。で、もう一度聞くけど誰?」

「だから、フェルデンだつて…よく見てみるよ、髪の色とか、肌の
色とか、目の色とか。」

「えー・・・髪? クリーム色。・・・一緒にだけどさ、偶然でしょ。肌
は・・・つて分かるかつ! ! ! 後は目かあ。・・・このキロンと来
る感じはフェルデンしか…。」

「つひなに顔赤くしてんの。」

「だつて、主人がじつと見つめてくるもんだから……。」

「いやいやいや……乙女な反応返されても。で、本題に戻るけど。
…………フェルテン、念えてよかつた。無事だったんだね。」

「（「）主人…………ワンナ（大好き）」

「キヤアアアアア！――その姿で飛びついてこないで――変態つ――」

「（ガ、ガーン）へ、変態だなんて、ヒ、ヒトヒ…………。」

やつぱり、こんなのが私の天使だなんて思えない……。

ああ、帰ってきて。可愛いフェルテン――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6605f/>

“わん”ダフルな世界

2010年10月28日06時31分発行